

障害者の継続的な支援のための情報移行の書式の検討

—「できますシート」におけるアイディアの量的増加および質的向上に向けた介入の効果—

The study of sharing information sheet for successive supporting persons with disabilities
-The effect of intervention for increasing the number of ideas and improving quality of ideas
in “Dekimasu sheet”-

立花周太#1・吉尾玲美#2・中鹿直樹#2・望月 昭#2

Tachibana Shuta, Yoshio Reimi, Nakashika Naoki & Mochizuki Akira

#1 ライフステージ悠トピア・#2 立命館大学

#1 Lifestage-Utopia / #2 Ritsumeikan University

Key words:情報移行, 援助付きの行動, 「できますシート」

目的

障害者の就労支援においては当事者の支援情報の移行が必要となる。林ら(2011)は、特別支援学校高等部の生徒を対象に職場実習で支援を行い、情報移行のあり方を検討した。その検討を基に情報移行の書式「できますシート」を開発した。「できますシート」は「行動的 QOL」(望月,2001)の拡大を念頭に、対象者一人ひとりの「援助付きの行動」を記述する書式であり、どのような条件設定があれば、対象者は行動を生起、維持できるのかを関係者間で移行・共有するための書式である。「行動的 QOL」の拡大とは、当事者の「正の強化を受ける行動機会の選択肢を増大する」ということである。しかし、「できますシート」における行動的 QOL 拡大の方法は検討されていない。そこで、本研究では項目「こんなことができる」に三項随伴性を模した図を挿入し、項目「確認したいこと」「新しい行動のアイディア」におけるアイディアの量的増加および質的向上への効果を検討する。

方法

本研究では2つの実験を行った。共に ABA デザインであった。実験1、2にそれぞれ3名の大学院生が参加、「できますシート」の記述を行った。大学院生らはシートの記述経験のない人物であった。実験1では、実験全体を通して教示用に準備した「記述例示」を提示した。BL期では通常のシートを使用し、介入期において項目「こんなことができる」に三項随伴性を模した図を挿入したシートを使用した。実験2では記述例示を除去し、介入期に前述の図を挿入したシートを使用した。図1が介入期に呈示された「三項随伴性を模した図」である。

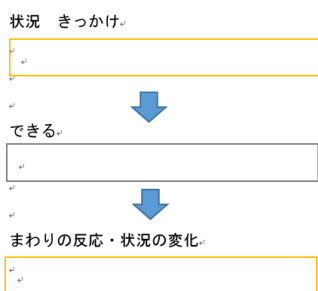


図1 三項随伴性を模した図

結果

実験1の介入期においてアイディア数が増加するといった量的効果は確認されなかった。また、実験1では教示用の「記述例示」が実験全体を通して提示されており、その影響が考えられたため、実験2ではそれを除去して実験を行った。しかし、実験2においても図の効果は確認されなかった。

質的検討として、「援助付きの行動」に基づき設定した「適切さ」の評価基準を基に項目「こんなことができる」「確認したいこと」「新しい行動のアイディア」の記述を分析した。実験1では条件設定と行動が併記されている記述が多数見られたが、実験2では単独能力の記述が多数見られた。

考察

結果から「三項随伴性を模した図」は、アイディア数の増加に関し、効果がなかったと考えざるを得ない。また、実験1,2の記述を比較して、前者が比較的「適切さ」が高いことが高いことが判明した。「適切さ」に関しては、「例示」を提示していた実験1の適切さが高かったことから、「適切さ」を向上させるためには例示が有効であることが考えられる。

文献

林 炫廷・太田 隆士・中鹿 直樹・望月 昭 (2011). 障害のある人への継続的な就労支援を行うための「できること」についての情報構築—特別支援学校の教員と保護者の連携の下での「できますシート」の書式の検討—. 対人援助学会第3回大会, 12.
望月 昭 (2001). 行動的 QOL: 「行動的健康」へのプロアクティブな援助. 行動医学研究, 6, 8-17.